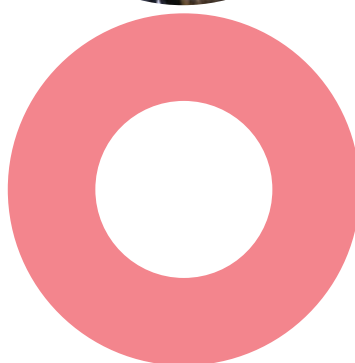


金沢大学広報誌 | アカンサス

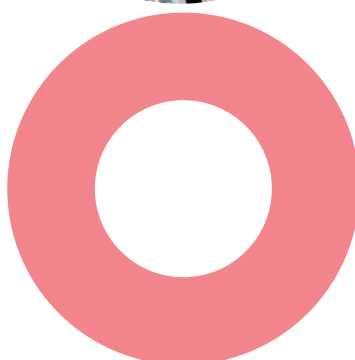
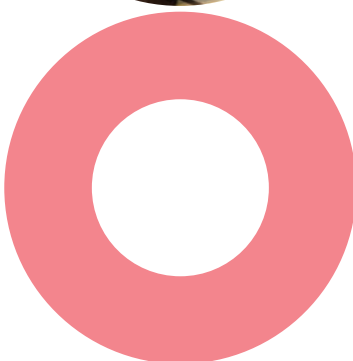
Acanthus

No. 31



金沢大学と 地域をつなぐもの

Kanazawa University Social contribution



金沢大学と 地域を つなぐもの

Kanazawa University
Social contribution

大学の使命「社会貢献」。
地域を支え、地域に支えられ、
金沢大学と地域はともに発展しあう存在として
つながりを深めてきました。
大学と地域をつなぐもの、大学の「知」。
知は、教育、研究、医療などにカタチを変え、
地域に活力をもたらしています。

Contents

- P.02 特集 金沢大学と地域をつなぐもの
- P.10 最新！16学類NEWS
- P.12 学生の地域連携活動を応援！学生チャレンジ事業

- P.13 メンバーに聞く CIRCLE & VOLUNTEER
- P.14 金沢大学 CHALLENGE!
- P.15 もっと知りたい！金沢大学の館

教育

でつながる

Linked with Education

環境に関する先進的教育を継続的に推進し、
持続可能な社会の構築に貢献する人材を育成する

環境教育・ESDの推進

金沢大学では、国内外で活躍できる環境人材の養成を重点課題の一つと位置付けています。環境問題は簡単に結論にはたどりつけない、複合的なもの。環境のとらえ方は文系的視点、理系的視点、医系的視点とさまざま、課題解決のためにはそれらを俯瞰し総合的に考える力が求められます。本学では、学士課程および大学院課程に、それぞれに応じた環境教育・ESDプログラムを構築。すべての課程を通じた枠組みを設定することで持続可能な社会をいかに構築するかについての体系的な知識を修得し、問題解決に向けた実践的能力を持った人材を育成します。



環境・ESDに関する社会教育の推進

ユネスコスクール(※)をはじめとする初等中等教育に対する継続的な支援活動、また、附属図書館における環境学コレクションの充実、エコ学習コンクールの実施など、児童生徒の環境・ESDに関する意識啓発に積極的に取り組んでいます。

● ESDに関する地域貢献

ユネスコスクール等初等中等教育に対するESD推進支援

金沢大学は、2008年度から金沢市や富山市などの小中学校等の教員を対象とするESD研修、ユネスコスクールへの申請支援など、北陸の初等中等教育におけるESD推進に向けて積極的に活動しています。



東海・北陸ユネスコスクール交流会でグループ討議

(※)ユネスコ憲章に示されたユネスコの理想を実現するため、国際的な連携を実践する学校。現在世界180以上の国・地域で10,000以上のユネスコスクール加盟校があります。

地域の伝統・文化・資源を再発掘 まちづくりインターンシップ

国立大学としては初めての本格的な地域系学部として2008年春にスタートした人間社会学地域創造学類。まちづくりインターンシップは地域創造学類の地域プランニングコース2年生の必修科目。夏休みの約2週間、3～4人のグループで自治体やまちづくりNPOの活動を実際に体験し、まちづくりの現場を学びます。



氷見市インターンシップ



鯖江市インターンシップ

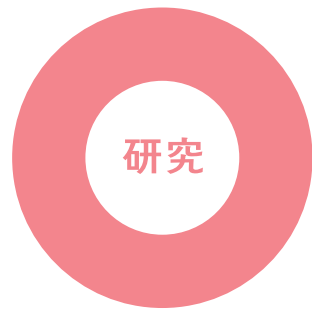
What's ESD?

ESD

Education for Sustainable Development

持続可能な
社会づくりの担い手
はぐくむ教育

一人ひとりが自然環境や資源の有効性、地域の将来性など、さまざまな分野とのつながりを認識し、持続可能な社会の実現に向けて行動する人材を育成する教育のことです。金沢大学においても環境教育・ESDを進めるとともに、その普及・拡大にも努めています。



でつながる Linked with Research

研究活動を通じた地域との連携で、
少子高齢化や過疎化などの
地域社会の課題解決につながる取り組みを推進する

KANAZAWA

聞き取り調査を高齢者の 生活支援に役立てる

金沢大学は金沢市と連携し、市内でも高齢化率の高い新立町地区の高齢者を対象に、生活ニーズの聞き取り調査を実施しています。住民への聞き取りは学生が実施し、ゴミ出しや除雪など、普段の生活で困っていることや、ボランティアへの関心度などを調査・分析。その結果は、住民ボラ

ンティアが行う支援内容の決定に活用されました。聞き取り調査を通じて、高齢者を地域ぐるみで見守るネットワークの構築や住民ボランティアによる生活サポートなどの、地域住民主体の高齢者支援体制の構築に取り組んでいます。



学生による聞き取り調査

KOMATSU

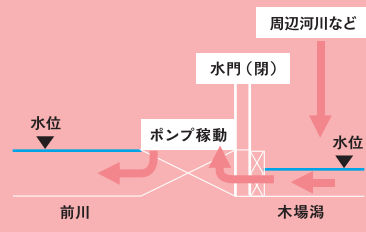
市民いこいの場「木場潟」の 水質改善に取り組む

木場潟は県内でただ一つ太古のままの姿を残す湖。以前は自然豊かで美しかったといわれていましたが、流域の都市化に伴い生活排水が流入し水質汚染が進行しました。環日本海域環境研究センターの長尾誠也教授らの研究グループは小松市と連携し、2010年から木場潟の水質改善に向けた共同プロジェクトを実施。水質汚染の原因調査、環境改善技術の開発や環境教育の推進などさまざまな取り組みが進められています。2015年11月からは新たな実験がスタート。木場潟下流に設置されている水門やポンプを活用し、湖水循環を促進させ、農業用水の水質改善が図られるかを検証するというもので、水質改善のためのより効果的な方法として期待されます。



木場潟での水質汚染原因調査

水門を閉じ、ポンプを用いて木場潟の 水位を下げることで湖水循環を促進



小松
KOMATSU

金沢
KANAZAWA

SUZU

自動運転自動車の 開発で高齢者支援



周辺物体の動きを認識するかをテスト



周辺環境認識センサー

360°回転する全方位レーザーと、フロント部に遠距離用のレーザーとレーザーをそれぞれ搭載。障害物用のマップを生成し、移動物体を検出することができます。

里山・里海の活用によって 地域の課題解決につなげる

能登里山里海研究部門(珠洲市)

金沢大学は、珠洲市小泊の能登学舎を奥能登の教育研究の拠点として、大気観測・能登スーパーサイト、「能登里山マイスター」養成プログラム(※)などを実施しています。これらの事業成果は能登の里山の世界農業遺産認定の基礎となり、フィリピンのイフガオの

棚田におけるイフガオ里山マイスター養成プログラムにつながっています。このような本学の珠洲市における教育・研究の拠点化をさらに推進し、成果を確実に地域に還元させるため、珠洲市を中心とした能登の里山里海研究に関する寄附研究部門「能登里山里海研究部門(珠洲市)」を設置。研究成果を地域の課題解決につなげ、また、珠洲市を含む奥能登を世界の里山里海のモデルフィールドとしても発信していきます。

※(H19.7～H24.3まで。H24.10からは後継事業として「能登里山里海マイスター」育成プログラム)



大気観測・能登スーパーサイト(気球を飛ばし大気観測や黄砂採取を行う)

能登をフィールドに 認知症の早期発見・予防を目指す

じまプロジェクトでは中島地区の60歳以上の全住民を対象に、生活習慣に関するアンケートや自覚症状の聞き取り調査、臨床心理士による認知機能検査などの健康調査を実施。地域住民の協力のもと行った調査の結果、積極的に認知機能検査を受けない住民の中に認知症の方が多く含まれていること、緑

茶を毎日摂取する人は将来の認知機能低下のリスクが低いことを疫学的に明らかにしました。なかじまプロジェクトを通じて、認知症の早期発見につながる調査・研究を進めながら、科学的根拠のある予防・早期発見プログラムの確立を目指しています。



採血検査による健康調査

珠洲
SUZU

七尾
NANAO



でつながる Linked with Medical

地域の医療ネットワークの一員として、
患者さんや家族との、
顔が見える関係を大切にする

がん哲学外来 「生と死」について考え、がんに伴う心の苦痛を和らげる

2人に1人ががんにかかる現代。がんにより生じる身体的苦痛(身体の痛みや息苦しさなど)に対して、薬や注射を使って苦痛を和らげることはできます。一方で、がん患者さんは診療を続けるなかで死を身近に感じ、生きる希望を見失

うといった心の苦痛(スピリチュアルペイン)を抱えています。金沢大学のがん哲学外来は、このような苦悩を相談できる場所であり、医学では解決できない専門的な支援を医師が行うという、全国にあまり例のない専門外来です。

大切に していることは？

心と体だけでなく、精神次元を有する総合的な存在として“人”をとらえ、対応すること。



〈がん哲学外来〉
山田 圭輔 先生

INFORMATION

金沢大学附属病院 麻酔科蘇生科専門外来「がん哲学外来」
開設／2013 年5 月 診療日／毎週火曜の午後 ※完全予約制

がん哲学とは

がんに伴う心の苦痛を軽減するために、自分自身の言葉で生と死を考えることが必要です。これを支援する場が「がん哲学外来」です。

大切に していることは？

診察中ではなるべく患者さんへの質問を控え、患者さんの声に耳を傾けます。そのために、事前の問診は時間をかけて入念に行います。



〈漢方外来〉
小川 恵子 先生

漢方外来 五感をフルにを使って患者さんの「元気度」を診る

冷え性や疲れやすさなど、病名のない症状の改善に効果的な漢方薬。金沢大学の漢方医学科では耳鳴りやぜん息、冷え性からがん治療の副作用緩和やこどもの体質改善まで、幅広い診療にあたります。診察方

法は東洋医学伝統の四診「望聞問切」。見て、触れて、聞いて、五感をフルに活用して患者さんの内側で何が起きているのかを見極め、一人ひとりに適した漢方薬治療を行います。

INFORMATION

金沢大学附属病院 漢方医学科
開設／2015年1月 診療日／毎週木曜日の午前、毎週月～木曜日の午後(※木は第1・3週のみ)※完全予約制

漢方医学の診察法 四診（望聞問切）

漢方は、もともと中国（漢王朝時代）で発達し、日本に渡って独自の発展をしてきた伝統医学。患者さんの自覚症状を重視し、病気を身体全体の不調和ととらえ、正しくととのえることを医療目的としています。

望 診（みる）

視覚による情報収集

動作、 顔色、 口唇、
歩容、 皮膚、 歯齦、
眼光、 爪、
舌（舌診）、頭髪



聞 診（きく）

聴覚・嗅覚による情報収集

言語・音声、咳嗽・呼吸音、
グル音、動脈雑音、便臭、
尿量、尿臭と色調



問 診（聞き取り）

病歴、 自覚症状



切 診（ふれる）

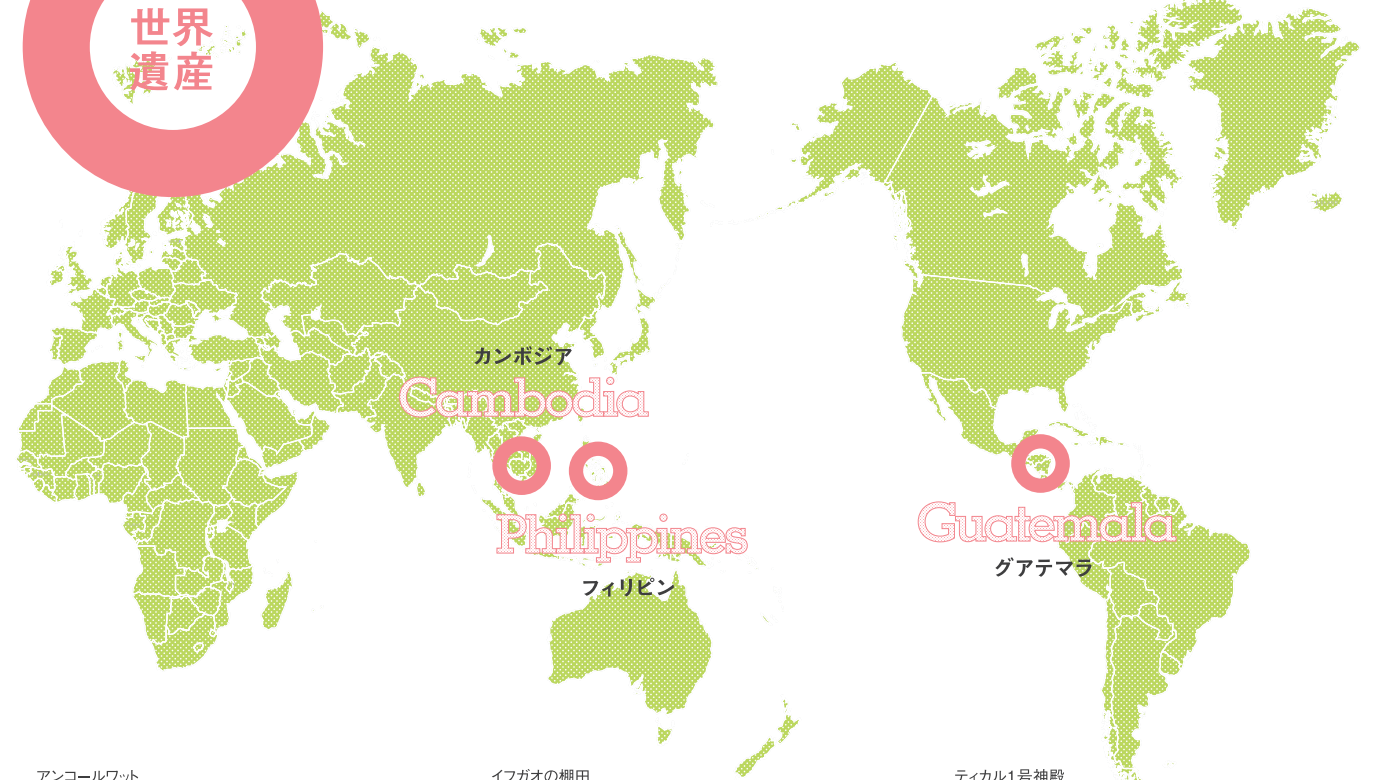
身体に触れることによる情報収集

触診、
(四肢、腰背部、皮膚、浮腫)
脈診、腹診



で社会貢献

世界 遺産



アンコールワット



イフガオの棚田



ティカル1号神殿



カンボジア

金沢大学アンコール遺跡整備公団
学生インターンシップ

世界遺産での人材育成で 国際社会に貢献

アンコール世界遺産公園では、継続的かつ創造的な発展と、自然、世界遺産、そして地域住民が調和する環境づくりに向けて、ユネスコなどとカンボジアが連携して活動し、また、世界17カ国の遺跡修復チームが活動を展開しています。金沢大学では、このような真の国際社会の場で、2010年から海外インターンシップを実施。アンコール遺跡整備公団で遊歩道の整備や水環境・森林環境の維持管理、観光客向けインフラの整備といった業務に公団職員とともに従事しています。



フィリピン

世界農業遺産(GIAHS)「イフガオの棚田」の持続的発展のための人材養成プログラムの構築支援事業

世界農業遺産・能登の経験を イフガオに

イフガオの棚田は世界農業遺産に認定されていますが、近年、若者の農業離れや都市部への流出により、耕作放棄地の増加が懸念されているほか、地域の生活・文化を守り継承していく人材の養成が急務となっています。金沢大学は世界農業遺産認定地域である能登での「能登里山里海マイスター」育成プログラムのノウハウを活かした、同地において魅力ある農業を実践し地域を持続的に発展させる若手人材を養成するプログラムの構築支援を行っています。



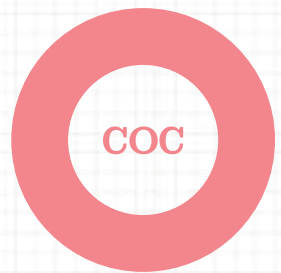
グアテマラ

世界複合遺産「ティカル国立公園」住民の生活向上支援プロジェクト

文化資源を活用した 生活向上支援

中米に広がるマヤ文明の遺跡群のひとつであるティカル国立公園。ここでは、世界遺産としての観光開発が周辺住民の生活向上に結び付いておらず、文化資源、自然資源が活用されていないといった課題があります。金沢大学は、このティカル国立公園の保存と活用をととして、遺跡修復保存の技能研修実施などで地域住民に仕事の基礎を身に付けてもらうなどの生活向上支援プロジェクトに取り組んでいます。





金沢大学の地（知）の拠点整備事業

文部科学省「地（知）の拠点整備事業」による支援を受け、石川県および県内8市町村と連携しながら、金沢大学は「教育」、「研究」、「社会貢献」の3つの柱により、地域の感性を備えた人材の育成や地域への研究成果の還元に取り組んでいます。

COC / Center of Community の略

金沢大学COC事業



アカデミア部門（教育）

地域の感性を備え、知識と社会を結びつけられる行動力ある人材の育成

- ☐ 共通教育
 - ・新入生向け必修科目「地域概論」の導入
 - ・共通教育特設プログラム「総合地域論」の導入
- ☐ 専門教育
 - ・専門教育における地域志向科目及び臨地教育科目の充実



地域ニーズ・シーズ部門（研究）

総合大学の強みを最大限活用した地域志向研究の推進

- ☐ 地域ニーズと大学シーズのマッチングによる課題解決
- ☐ 異分野連携型研究者チームとステークホルダーの協働による研究成果の社会還元



インテリジェントライフ部門（社会貢献）

地域のインテリジェントライフ創造拠点として機能強化

- ☐ 地域と世代の特性・ニーズに応じた「知」の提供による地域住民の暮らしの充実
- ☐ 大学と自治体の協働による地域活性化政策への提言と推進

地域志向型 教育研究プロジェクト

金沢大学COC事業は、教育研究活動をととして地方創生の一翼を担っています。

学生による住民の幸福度向上に向けた政策提言

人間社会研究域人間科学系の眞鍋知子准教授らの研究グループは、自治体と共同で、アンケート(調査票)を用いた住民意識調査や聞き取り調査を行い、集計・分析をととしてまちづくりの課題を発見し、その改善策について提言しています。今回、眞鍋准教授らは学生とともに、平成25年度に小松市内で実施した「こまつ幸せへの『道しるべ』作成のための市民意識調査」の調査結果を分析し、課題のあった4地区でワークショップを開催。学生たちが本調査で分かった各地区の特徴を発表し、住民らは自分たちが感じている幸福度や改善点について話し合い、自分以外の住民の思いや考えを理解し、まちづくりへの意識を深める機会となりました。これらの活動により、市民の協働意識を促したり、活動成果が自治体の施策に反映されるとともに、学生にとっても、調査データを分析するスキルの習得や、市民と接することで知る地域の実情を政策提言に結び付けけるなどの学びの場となっています。



小松市板津中学校区のワークショップにて



学生インタビュー

New Graduate Interview

金沢大学を今春卒業する学生にインタビュー。
学生生活で経験した地域との関わりや、後輩などに
伝えたい事、これからの生活について聞きました。

積極的に行動すると、きっと新しい自分に出会える！

私が学生生活を振り返って一番印象に残ったのは、2年生で行った「まちづくりインターンシップ」での地域社会との関わりです。内灘町で幅広い年齢の人が同居する「世代間同居」をテーマとして、そのニーズなどを大学生からお年寄りまでの幅広い方々に直接聞き取り調査を行いました。夏休みの約2週間、自治体やNPOの活動を実際に体験して、まちづくりの現場を学び、地域のために活動している人々と直接ふれあうことで、まちづくりの大変さと楽しさ、地

域が抱えている問題に対して住民がどのように取り組んでいるのかを実感しました。高校まではどちらかというと受け身的に勉強することが多いと思うのですが、大学、特に地域創造学類ではフィールドワーク(実地調査)も多く、地域の中へ飛び込んで色々なことを学んでいかなければなりません。これから金沢大学を目指す方や在学学生は、「積極的に行動する」ことをぜひ心がけて下さい。そんな行動の先にはきっと成長した新しい自分が待っていますよ。

大学での学びを社会で生かしたい

4月からは金沢大学で働きます。まだどんな仕事に携わるのかは分からないのですが、大学で学んだ「人が集まる場所には何かの課題があり、第三者的視点でそれを見つけ、解決していく」ための手法を仕事で生かしていきたいです。



畠山 香奈子

HATAKEYAMA, Kanako

人間社会学域
地域創造学類 4年

皆と協力し、達成する上で大事なこと

「自分たちのところに学生が来て、何かやってくれるのはうれしい」これは、私が所属している金沢大学放送局web-KURSで実施した「朗読会」に参加した地域の方からの言葉です。「朗読会」の開催に当たっては、まず、人が集まりそうな場所を考え、下調べを行いました。その後、開催候補となった病院や図書館の方と直接交渉するなど、すべてを自分たちで行い、開催しました。一部の場所では今後定期的に開催することも決まり、自分たちの企画で、地域の方々に喜ん

でもらえたことは本当に印象に残りました。他にも、web-KURSでは大学の協力のもと、県内で毎週ラジオ番組も放送しています。自分とは違った視点を持つメンバーと意見を交わしながら番組をつくりあげることで、視野が広がりました。これから金沢大学を目指す方や在学学生には、「手間をかけることは、楽しいこと」と考えてほしいです。かけた時間以上の思いもかけない結果がきっと得られます。

金沢大学で得た経験で、地域の人の役に立ちたい

4月からは福井県庁で働きます。大学4年間で得た知識を生かしながら、自ら考え動くことや手間を楽しむ姿勢を大切にしてい、地域の人々の役に立ち、喜んでもらえるような仕事ができるよう頑張っていきたいです。



笈田 紗希

OIDA, Saki

人間社会学域
人文学類 4年

最新!16学類 NEWS

金沢大学3学域・16学類から最新のとれたて「旬」な情報が届きました!
イベントや近況、注目の研究など
個性豊かな金沢大学の現在を身近に感じてください。

人間社会学域

College of Human and Social Sciences

人文学類

「英文科」の教員・卒業生が参加し 英文学会総会を開催

11月29日、金沢大学英文学会は、1953年の創設以来続く総会を石川四高記念館で開催しました。大学院生による研究発表、留学中の学生とのスカイプ通信、卒業生からの就活・英語教育の変遷の話、大学勤務の卒業生の講演と懇親会が行われ、旧制四高跡の教室で学んだ大先輩から、現役学生までが交流し、濃密な時間を過ごしました。



法学類

学生らが模擬裁判公演で 法律問題を考える

2月21日、法学類公認サークル「模擬裁判会」が、石川県文教会館で市民向けに無料で模擬裁判公演を開催。今回は、遺産相続をめぐる兄弟間の紛争をシナリオにし、民事裁判を演劇で表現。公演後には、学生と一緒に判決を検討し、身近な法律問題について理解を深めます。



経済学類

経済学類オリジナルの 就職準備連続講座(全4回)を開催

昨年12月の講座では、自己を見つめ直す機会を設けるとともに、学生が書いたエントリーシートを企業の人事担当者(卒業生)が添削。1月には、学外の専門家や企業の人事担当者を招いてマナー講座と面接講座を実施しました。さらに2月には、総仕上げとしてグループディスカッションの開催を予定しています。



学校教育学類

定期演奏会の運営の全てを 学生たちが行いました!

音楽教育専修は、毎年12月に定期演奏会を開催しています。市内のホールを会場に、3,4年生が日頃の研究成果(演奏)を発表するこの演奏会は、専修教員の監修のもと、運営の全てを学生が行います。演奏表現力の向上はもちろん、将来、学校の文化行事運営に必要とされる企画実践力の養成にもつながる貴重な機会となっています。



地域創造学類

金沢市民の体力テスト実施で 運動・スポーツを支援

健康スポーツコースは、金沢市総合体育館で市民の体力テストを実施しました。これは、体力レベルや健康意識を把握し、市民の運動・スポーツを支援するために金沢市体育協会と連携し今年度からスタートしたもの。学生らは、握力、上体起こし、反復横跳びなどの測定をとおし、健康意識や年齢による体力の差など地域の実情に理解を深めました。



国際学類

第2回国際学類同窓会に 約50名の卒業生が参加!

一昨年同窓会を発足させた国際学類では、11月1日に第2回同窓会を開催。北陸三県をはじめ、関東、関西、中京方面から1~3期生約50名が集い、近況を報告し合うにぎやかな会となりました。集合写真撮影後、コースごとの2次会、さらには卒業期・コースを超えた3次会で卒業生らは旧交を温めました。



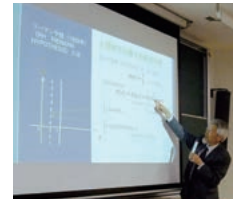
理工学域

College of Science and Engineering

数物科学類

計算科学コースが理学談話会 「数学の産業への貢献と新しい刺激」を開催

九州大学の若山正人理事・副学長が、同マス・フォア・インダストリ研究所の活動を踏まえながら、産業数学や未来への期待について講演しました。科学技術と社会における新しい数学の研究領域に関する講演は、参加した学生、教員の関心を引きつけ、講演後には時間ぎりぎりまで活発な質疑応答が行われました。



機械工学類

生物をヒントに 革新的機械構造の設計を目指す

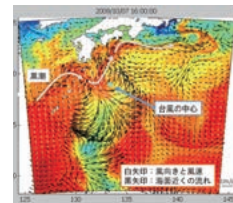
SIP「戦略的イノベーション創造プログラム」(革新的設計生産技術)に、坂本二郎教授らの研究「バイオイノベーティブデザインの研究開発」が採択されました。この事業では、バイオメカニクス、最適設計、組紐技術の一つの設計・製造システムとして統合した「バイオイノベーティブデザイン技術」の確立を目指します。



環境デザイン学類

台風・高潮を高精度に予測! 防災に役立つ技術開発

地球温暖化により、日本周辺では強い台風が増えることが予想されており、沿岸域の高潮防災には台風の正確な予測が必要です。台風の強さは海水温と深い関わりがあり、大気・海洋を同時に検討することが精度向上につながります。環境デザイン学類では、台風を高精度に予測するための大気海洋波浪結合モデルの開発を行っています。



大気海洋波浪結合モデルによる台風シミュレーション

物質化学類

光を用いる有機合成で 前多肇准教授が表彰

光を有機合成のエネルギー源として用いると、クリーンで環境に優しいだけでなく、熱反応とは異なった有機合成の道を新たに切り開くことができます。前多肇准教授は高効率・高選択的な新規光化学反応を多数開発した業績により、2014年12月に有機合成化学協会関西支部賞を受賞しました。



前多准教授(左)と神戸宣明関西支部長(右)

電子情報学類

ミャンマー工学教育拡充プロジェクトに 参画、教育力向上に貢献

本プロジェクトは、JICA技術協力事業(教育分野)の下、ヤンゴン工科大学とマンダレー工科大学を支援対象として、2013年から開始。これら大学の教員の研究能力向上、実践的教育の導入による学部教育と組織制度・能力の強化を目標に、カリキュラムとシラバスの改訂やミャンマー教員の短期研修、留学・博士号取得に取り組んでいます。



電気工学の実習に励むミャンマーの学生ら

自然システム学類

飛行機のボディーが 植物からできる?

現在のボーイング787の機体の大部分は、石油を原料とする炭素繊維強化複合材料(CFRP)で作られています。これに対し、高橋憲司教授と仁宮一章准教授の研究室では、文科省COI(センター・オブ・イノベーション)プロジェクトなどの支援を受け、石油ではなく植物を原料とする同様の機能を持った炭素繊維強化複合材料を作る研究を進めています。



飛行機のボディーが植物由来に!

医薬保健学域

College of Medical, Pharmaceutical and Health Sciences

医学類

「医学展」をとおり 現代医学をキャンパスから発信

11月1日、2日に、医学類生は保健学類、薬学類、創薬科学類生と共に、現代の医学・医療を市民に紹介する「医学展」を開催しました。ロボット手術、再生医療など最先端の医学・医療の紹介や、医師、看護師、薬剤師の卵の学生らによる血圧、体脂肪率の測定などさまざまな健康相談の場を設けました。



「バイキンマンプロジェクト」の様子

薬学類

医学展に漢方を身近に感じてもらう 「薬学ブース」を出展

11月1日、2日に行われた医学展に、薬学類3年生35名が参加しました。「薬学ブース」では、葛根湯の試飲、卵黄からの脂質の抽出実験、薬に関するクイズ大会を実施。来場者は葛根湯に使われている生薬を観察するなど、漢方を身近に感じる機会になりました。また、脂質の抽出実験をとおし、脂質と病気の関係も紹介しました。



薬学類・創薬科学類

日本薬学会 平成27年度薬学会賞を受賞!

早川和一教授(衛生化学研究室)が、「生活環境化学物質の高性能分析法の開発とその応用に関する薬学的研究」で、薬学会賞を受賞。早川教授は、都市大気汚染や中国のPM2.5について、毒性本体の多環芳香族炭化水素類を超高感度追跡し、自動車や石炭暖房からの発生や長距離輸送などの解明研究を進めています。



保健学類

2年間のガーナでの 活動・体験を先輩が講演!

理学療法専攻第10期生の米田裕香さんが、西アフリカ・ガーナでの青年海外協力隊・理学療法士としての2年間の活動について講演しました。国際的支援の場で活躍した体験談は、学生にとって国際交流や多文化交流・異文化理解の見識を深めるだけでなく、進路や生き方についても考える良い機会となりました。



学生の地域連携活動を応援！ 学生チャレンジ事業

金沢大生らしいアイデアによる、キャンパス又は地域をフィールドとした
地域活性化プロジェクトに対して金沢大学地域連携推進センターが活動費の一部支援やアドバイスをを行う事業です。

平成26年度に支援が行われたプロジェクト一覧

15件の応募があり、その実現性や継続性、学生や地域への有益性などを審査の上、次の5件に対して支援が行われました。

チーム名	取り組み（プロジェクト名）
地域ブランディング研究会	地域資源を生かした能登島活性化事業
金沢大学クリエイティ部	第2回 金沢アートキャンパス
サークルS	金大祭における【金沢和傘 × プロジェクションマッピング】
飛脚～HIKYAKU～	石川トランプ 金沢大会および県内自治体での大会開催
田んぼサークル	アヂチ谷における金沢大学農園としての里山の活用

地域ブランディング研究会

地域資源を活用！ 能登島の観光を活性化

能登島に存在する数多くの地域資源を活用。観光分野の発展を通じた「地元経済の活性化」「顧客にとって魅力ある観光地としての能登島ブランドの確立」を目指しています。



「能登島 冬のあかり祭」での竹灯り作り

Student's Voice

活動をととして、新たなものをゼロから創り上げることの難しさを強く感じました。地域にはたくさんの「学び」があり、「先生」がいます。教室での講義だけでは得られない経験をぜひ多くの学生にも知ってほしいです。
人間社会研究域法学類2年／田口 佳音

飛脚～HIKYAKU～

遊び方は無限大！? 石川県をトランプで再発見！

石川県の市町の数はいくつ？どんな場所がある？石川県は思っているより魅力がいっぱい！知らなかった石川県がきっと見つかるそんなトランプができました。



トランプを使った活動の様子

Student's Voice

「石川県はすばらしい！」今回の事業をととして県内各地を巡り、生で感じた気持ちです。この石川トランプには、私達が見つけた生の魅力がぎゅー詰まっています。さあみなさんもレッツトライ!!
人間社会学域地域創造学類4年／皆瀬 勇太

メンバーに聞く

CIRCLE & VOLUNTEER

金沢大学で活動する140以上のサークル・ボランティア活動団体などから2つをピックアップして紹介します。

Circle 硬式テニス部

部員の応援があったから 優勝できた。 三田 圭輔

「硬式テニス部の魅力はなんといっても団結力です」と平成26年度北信越学生テニス選手権男子シングルス・ダブルス優勝という輝かしい成績をもつ三田圭輔さん(経済学類3年)は話す。そんな三田さんが団体戦に出場するようになったのは、金沢大学に入学してから。その思い出について聞いてみると、「団体戦をととして、まわりのことを考える大切さとチームワークの重要性を学ぶことができました。応援してくれる部員の盛り上がりや背中に伝わり、そのおかげで勝利する

ことができた試合もありました」と振り返る。団体戦前の最後の練習終了時には、いつも円陣を組んで、意気込みを叫び、団結力を高めていたそう。今後の目標について聞いてみると「自分は平成27年2月で引退ですが、硬式テニス部としては北信越王座決定試合での優勝が大きな目標です。去年は惜しくも準優勝だったので、今年は絶対優勝してほしい」と後輩に期待を込める。年齢や学年を超えた団結力で、金沢大学硬式テニス部は、優勝に挑む。



三田 圭輔
好きな選手／ロジャー・フェデラー

最近の戦績

平成26年度北信越学生テニス選手権大会
男子シングルス優勝
男子ダブルス優勝



Volunteer 図書館学生ボランティア とぼら

図書館と学生をつなぐ架け橋に。 達成感が活動の支え。

図書館をもっと学生が楽しめる場所にするための企画や展示を行う図書館学生ボランティア「とぼら」。その活動の魅力について、メンバーは、「本の好きな仲間が集まり、様々な企画をできるのが楽しい」と目を輝かせる。去年は初めて、オープンキャンパス期間中に中央図書館内の「ほん和かふえ。」にて「とぼらトーク」というイベントを開催。高校生やその保護者に対し、金沢大生の学生生活を紹介した。当日は、多くの来場者が訪れ、企画は大成

功。企画から演出まですべてを担当したメンバーらは、大きな達成感を得ることができた。今後の活動についてメンバーは、「図書館に勉強しに来るという人が多いなかで、活動をととし、こんなに魅力的な本も置いてあるということを伝えたい。そして、より日常的に図書館を利用する人が増えるといいと思います」と意欲を示した。図書館を訪れる際には、是非「とぼら」メンバーおすすめの本をチェックしてほしい。



企画展でおすすめの本を紹介

大久保 直人
好きな本／
Q&Aで読む
日本軍事入門
(吉川弘法文館)
前田哲夫、飯島慈明

武藤 暢秀
好きな本／
ハゲアンニメ!
(マガジンハウス)
辻村深月

森岡 春香
好きな本／
東京島(新潮社)
桐野夏生



Kanazawa University CHALLENGE!

金沢大学は高大連携によるグローバル化にチャレンジします！

金沢大学と人間社会学域学校教育学類附属高等学校は、本学の人的・物的資源を最大限に活用し、スーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業を推進しています。

SGHとは

文部科学省では、高等学校等において将来国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成のための研究開発を行うスーパーグローバルハイスクール (SGH) 事業を平成26年度から行っています。

Kanazawa University

グローバル人材育成推進機構

大学の国際化・グローバル化を一層推進し、全学を挙げたグローバル人材の育成に取り組む

スーパーグローバルハイスクール (SGH) 特区教育センター
大学のグローバル人材育成の方針を踏まえ、SGH 事業を実施

連携
協力

SGH 指定校

人間社会学域学校教育学類附属高等学校

SGH 指定校 教科カリキュラムの SGH 化	1 地域課題研究	外部資源の 活用
	2 異文化研究	
	3 グローバル提案	
	4 グローバルキャリアパス	

課題研究一貫カリキュラム

金沢大学附属高等学校の研究開発構想！

課題研究一貫カリキュラム	教科カリキュラムのSGH化	外部資源の活用
グローバルリーダーを段階的・有機的に育成するため、4つの課題研究の一貫したカリキュラムを開発	生徒の基礎教養と技能を向上させるため、既設教科の内容と方法を改善	環日本海・東アジアの大学や高校と連携し、課題研究の質を高める方法を開発

主な取り組み

地域課題研究

大学研究者による指導・助言で課題解決策を提案

本学の研究者が附属高等学校の授業に参画。専門的立場から生徒に指導・助言を行う。



教科カリキュラムのSGH化

在籍している500名以上の外国人留学生を活用

本学在籍の外国人留学生を附属高等学校に派遣し、生徒と英語によるディスカッションを実践。



異文化研究

国際交流で異文化理解 台湾師範大学生との交流授業

附属高等学校生と本学大学間国際交流協定校である台湾師範大学の学生が、互いにそれぞれの国を訪れ、日本と台湾の文化比較を行う交流授業を実施。グループディスカッションや現地での共同調査を行い、文化の違いや共通の課題を発見する。



北陸からイノベーションで世界を変えるグローバル・リーダーの育成！

SGHと連動するSGU事業が本格始動！

金沢大学SGUキックオフシンポジウム開催

日時／平成27年3月22日(日) 13:30～17:15 会場／ホテル日航金沢
基調講演／明石 康(公益財団法人国際文化会館理事長、元国際連合事務次長)

金沢大学は北陸唯一の文部科学省スーパーグローバル大学 (SGU) 創成支援事業の採択校です

3.22
START UP!
Kanazawa University
SGU Symposium

もっと知りたい！ 金沢大学の館

金沢大学にはいくつかの「館(やかた)」があります。今回はその中から2つをご紹介します。一般の方もどうぞご利用ください。

医学図書館にカフェオープン！



医学図書館カフェ「プラタナスカフェ」は、附属特別支援学校高等部生徒の作業実習の一環として昨年10月7日にオープンしたもので、生徒らが手作りクッキーやドリンクの販売を行っています。生徒にとっては、カフェでの実習をとし、社会の中での実践的なコミュニケーションを学び、またカフェの主な利用者である医学系学生にとっても、医療従事者として将来役立つ貴重な体験を得ることができる、相互に良い影響をもたらす場となることが期待されます。

platanus
café

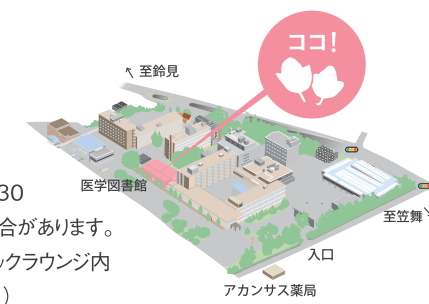
営業時間／

火曜・木曜10:30～14:30

※行事等で変更になる場合があります。

場所／医学図書館1Fブックラウンジ内
(金沢市宝町13-1)

<http://partner.ed.kanazawa-u.ac.jp/futoku/activities/platanuscafe/>



オープニングセレモニー



実習に向け抱負を述べる生徒

貴重な資料の数々は必見！金沢大学資料館へGO！

金沢大学資料館では、本学に関する学術研究資料や文書を収集・整理・保存し、これらを「学術標本」および「大学史料」として展示・公開しています。加賀藩時代の史料や暁鳥陶器コレクション、旧制第四高等学校の物理実験機器など貴重な資料の数々は必見！年一回の特別展のほか、趣向を凝らした企画展も開催しています。

収蔵品の一部を紹介！



マグダブル半球



顕微偏光装置 (偏光顕微鏡)



タイガー連乗式計算機

金沢大学資料館

開館時間／平日のみ10:00～16:00

場所／中央図書館内(金沢市角間町)

入場料／無料

<http://museum.kanazawa-u.ac.jp/>



資料館展示室(中央図書館内)

CLOSE
UP

金沢大学に「至誠」あり！



「写真集旧制四高青春譜」より転載 (能登印刷出版部1986年)

明治期の至誠堂。(右側にかかっている額が「至誠」の扁額)

「至誠」は、1901年、当時第四高等学校校長北条時敬が皇族軍人小松宮彰人新皇に染筆を依頼し、下賜された書。四高ではこれを額装して講堂に掲げ、以後その講堂を至誠堂と呼ぶようになりました。至誠堂は現存しませんが、この扁額が当時の四高の校風を物語っています。

in NOTO
2014
8.10-12



Noto camp with the president

学長と行く能登合宿

座禅体験や下草刈りなど体力・

精神力を鍛えるプログラムに学生が山崎光悦学長と共にチャレンジ!

民泊体験で地域への理解を深めながら、

社会で求められる「人間力」の重要性を学びました。



KANAZAWA
UNIVERSITY